

FAO「PRODUCTION YEAR BOOK 1971」利用上の注意事項

1. 1人・1日当たり食料供給量は、一般的に「穀類」、「砂糖類」、「豆類」、「魚貝類」、「牛乳および乳製品」、「油脂類」は我が国の食料需給表でいう純食料段階の数値であり、他は粗食料段階の数値で計上してある。なお、「いも類およびでん粉」のうち、いもでん粉はいもに換算してあり、また、日本の「みそ」「しょうゆ」はその原料の「だいず」分のみ「豆類」に加えてある。
2. 1人・1日当たり熱量供給量、蛋白質供給量、脂質供給量においては、日本の「みそ」「しょうゆ」はその熱量、蛋白質、脂質の全量を豆類に計上してある。
3. 統計表の注記号の説明は下記のとおりである。

T：暫定値である。

F：FAOの推計値である。

- 1)：年度の区分は、暦年データでないものは、たとえば1967／-69／で表示しているが、これは1967／68～1969／70の平均値のことである。
- 2)：精米および製粉で表示してある。
- 3)：主食と考えられる場合は、料理用バナナおよびバナナを含む。
- 4)：精製糖換算であり、粗糖、糖みつ、はちみつおよびその他の糖製品を含む。（ただし、日本ははちみつを含まない。）
- 5)：豆類はさや無し表示であり、ココアを含む。日本はみそおよびしょうゆを含む。
- 6)：生鮮表示であり、調製野菜を含む。
- 7)：生鮮表示であり、調製果実を含む。
- 8)：家きんおよび鳥獣を含み、枝肉重量表示である。可食内臓を含む。（ただし、日本は可食内臓を含まない。）
- 9)：生鮮表示である。
- 10)：可食重量である。
- 11)：牛乳および乳製品にはバターを含めず、また生乳で表示してある。ただし、アラブ連合、インド、パキスタン、日本はバター向け生乳を含む。
- 12)：アラブ連合、インド、パキスタン、日本はバターを除く。
- 13)：1958／59はザールを除く。
- 14)：料理用バナナおよびバナナを含む。
- 15)：このデータ、特に穀類、豆類は1968年の家畜統計および政府の権威者との協議にもとづき改訂した。
- 16)：4月から3月の財政年度である。
- 17)：1964-66平均には、ナンビア、ホスワナ、スワジランド、ルソト地域を含む。